

2017-B

VI16B

拠出金・基金
の名称

日韓学術文化青少年交流基金拠出金

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】日韓学術文化青少年交流共同事業体

【所管官庁担当局課・室名】外務省アジア大洋州局北東アジア第一課

【当該任意拠出金の目的・用途等】

両国間の学術・文化交流などを促進することにより、両国国民間の相互理解と信頼関係を醸成するとともに、文化・学術・歴史等、幅広い分野に関する会議事業を行い、両国の有識者等の関係強化に努めている。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	123,437			1ドル=120円	0
平成28年度	129,934			1ドル=110円	0
平成27年度	132,193			1ドル= 97円	0

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

これまで当該拠出金に基づき以下の事業を実施しており、これら事業は両国の各層・各分野の国民間の相互理解の促進、さらには信頼関係を構築する上で重要な役割を果たしている(以下の実績数は、平成元年から平成29年まで)。

- ・助成事業(青少年・草の根交流等を対象)では、計1,316件を実施。
- ・学術研究者交流事業(日韓の若手研究者の研究を支援)では、計647人が訪日、計81人が訪韓。
- ・日韓首脳会談で設立に合意した有識者による各種意見交換の場(日韓文化交流会議、日韓歴史共同研究委員会、日韓新時代共同研究プロジェクト)を提供。
- ・青少年交流では、招聘25,720名、派遣12,164名を実施(ただし、平成19年度から平成23年度までは、21世紀東アジア青少年交流計画の下で拠出された東アジア青少年交流基金拠出金にて実施。平成24年度はアジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流(キズナ強化プロジェクト)の下で実施。平成25年及び平成26年度はJENESYS2.0、平成27年度はJENESYS2015、平成28年度はJENESYS2016、平成29年度はJENESYS2017の下で実施、平成30年度はJENESYS2018の下で実施中)。

【備考】